

第9回「地域フォーラム」概要

開催テーマ 「地域のビジョンづくり」

日時 令和2年2月2日（日）13時30分～15時30分

会場 桜井市立図書館

資料説明	荒井奈良県知事
<p>本日、お示しする奈良新「都」づくり戦略（案）は、これからの奈良県政の歩むべき道筋の元手になるものと考えています。</p> <p>奈良県は、全国トップクラスの県外就業率であり、南部・東部地域を中心に急激な人口減少・高齢化が襲っています。</p> <p>今後、行政がどう取り組めば良いか、奈良県庁の流儀に統計重視、プロセス重視などを挙げていますが、県は市町村を助けて、ゴールをしてもらう、サッカーで言えば、賢く考えよく走るミッドフィルダーのような役目を果たしたいと考えています。</p> <p>今、働く場の確保が重要です。企業誘致は、この10年増えており、全国11位、近畿で2位の状況です。京奈和自動車道周辺の工場立地が進んでいますが、東部地域への企業誘致が課題です。</p> <p>また、観光は大きな要素です。観光産業が成立するには、宿泊客が来ないとはいけません。ハイエンドの観光客に対応した高級ホテルへ宿泊していただくとともに、スポーツ合宿など、運動施設と宿泊施設を一体的に整備していく必要があります。</p> <p>とくに田舎で魅力を発揮するのは「食」だと思います。NAFICにシェフの学校をつくりました。「泊」と「食」は、観光産業のひとつのポイントです。</p> <p>また、桜井地域は、木材で発展しましたが、世界の状況を見ても木材価格は上がらないと思います。そのことを前提に、森林を維持し、林業をどのように発展させるかが課題です。奈良県版フォレストの育成や、奈良の木のブランド戦略等に取り組みたいと考えています。</p> <p>南部・東部地域は力を入れると発展する面があります。働く場の確保、企業誘致、宿泊者の誘致により、発展の道筋をつけていきたいです。</p>	

資料説明	松井桜井市長
<p>桜井市は、木材、そうめん、皮革産業のまちとして発展してきました。早期健全化団体に陥る可能性もありましたが、財政健全化に取り組み、約12億円まで基金を積み立てることができました。</p> <p>市のまちづくりビジョンでは、大きく3つの考えを基に進めています。</p> <p>「観光・産業によるまちづくり」では、町を活性化するため、大神神社参道の整備や白河バイパス整備により、中和幹線から名阪国道へのバイパス機能を高めていきます。</p> <p>「福祉・医療・教育によるまちづくり」では、安全・安心に住み続けることができるよう、地域包括ケアの充実、防災の取組を進めたいと考えています。</p> <p>「多極ネットワーク型のまちづくり」では、コンパクトシティの形成に向けて、中心拠点とサブ拠点、さらに小さな拠点を公共交通で結ぶまちづくりを進めていきます。</p>	

今後も県とのまちづくり協定、奈良モデル、地方創生を組み合わせ、かつての桜井市になるようにしっかり取り組んでいきたいです。

資料説明	高見宇陀市長
<p>宇陀市では、出生数が初めて100人を下回る可能性があり、高齢化率も40%と急速に少子高齢化が進んでいます。</p> <p>公共交通利用者が減少する中で、高齢化に伴う免許証返納等による交通弱者の増加と移動手段の確保、子ども世代の成人による流出、人口減少や通勤者のリタイア等によるバス利用者の減少、奈良交通路線バスの赤字路線における負担金の増加等の課題を抱えています。</p> <p>このような課題に対応するため、本市では第二次宇陀市地域公共交通網形成計画を策定し、公共交通のあり方を調査検討してきました。</p> <p>全国的に公共交通を維持している地域は、地域住民自らが自分たちで解決策を生み出し、ニーズに合った交通網を実現しており、本市においてもそれぞれの地域特性に合わせて、なるべくコストのかからない交通網の実現に向けて取り組んでいます。</p> <p>地域福祉を考える際、集落をどのように支えるか、交通の移動手段をしっかりとつくりたいと考えています。</p>	

資料説明	芝田曾爾村長
<p>曾爾村は、漆塗り発祥の地と言われており、村の大部分が室生赤目青山国定公園に指定された風光明媚な村です。しかしながら、主産業である農林業が人口減少や後継者不足で低迷しており、観光力の低下にもつながる恐れがあります。</p> <p>こうした課題に官民共同で取り組むため、一般社団法人「曾爾村農林業公社」を設立しました。公社では、曾爾米のブランド化、高原野菜の産地復活、薬草プロジェクト等に取り組み、また、地域イノベーション事業として、それぞれの集落では、漆塗り発祥の地の復活、ゆず加工品の開発、米焼酎の製造、曾爾高原の水販売、こんにゃくの生産販売など新商品開発にも取り組んでいます。</p> <p>曾爾村の美しい自然景観や古い歴史、伝統文化は村の大きな財産です。この宝物を十分に利活用し、観光を生かした農業や林業の取組が不可欠です。小さくとも光り輝くオンリーワン「ぬるべの郷曾爾村」の構築に向け、村民一体となって頑張っています。</p>	

資料説明	伊藤御杖村長
<p data-bbox="240 322 1353 546">御杖村では、現在、年少人口が3.2%と急激に減少しています。平成22年度に第三次御杖村長期総合計画を策定し、3つの杖をテーマに取り組んできました。1の杖は、村民に安心を与え生活を支えるやすらぎの杖、2の杖は、訪れる人をもてなし村民に夢をみせる魅力の杖、3の杖は、村民と行政の協働を促す自律の杖を掲げ、諸問題の解決に取り組んできました。</p> <p data-bbox="240 562 1353 831">また、平成27年度には総合戦略を策定し、創生の杖（第4の杖）として、4つの基本目標を掲げました。1つ目は地域おこし協力隊等の積極的受入等による「地域ブランドで仕事を増やす」、2つ目は交流人口の拡大等による「新しい人の流れをつくる」、3つ目は子育て世代の移住促進等による「若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える」、4つ目は公共交通の維持・確保、防災訓練の実施など「村内で安心な暮らしをつづける」として、取組を進めてきました。</p> <p data-bbox="240 846 1353 927">今後も、少子高齢化対策など、村民が暮らしやすくなるよう次期総合計画に反映していきます。</p>	